燃料電池発電設備概要表

				項 目	良	否
設	備	種	別	低圧発電 高圧発電		
機	器	種	別	固体高分子型 リン酸型 溶融炭酸塩型 固体酸化物型 その他		
I	事	種	別	新設 増設 全部改設 一部改設 移設 改修 増改設 その他		
設置	置場戶	斤 (阝	皆)	階 屋上 屋外		
電			圧	105 210 415 6,600 その他V		
出			力			
+ -	ıービ	クル	該否	該当 非該当		
非常電源該否			苍否	非常電源該当 非常電源非該当 容量計算書の添付(有無)		
熱	源	X	分	灯油 重油 その他の液体燃料 都市ガス L P ガス その他の気体燃料		
保	守	管	理	非該当 自家 委託 その他		
設	I	<u> </u>	室	構造 壁(耐 火 準耐火 不 燃) 天井(耐火 準耐火 不燃) 開口部(防火戸 特定防火設備である防火戸) 換 気 自然換気(F D付) 機械換気(ダクト F D付 耐火被覆) ケーブル等の貫通部(大臣認定 不燃区画 その他)		
				プーブル等の負担部 (人民総定		
電	気	方	式			
				室面積 m² 発電専用 発電+熱供給 その他発電 対震装置(無 有) 型式番号 設置位置(本体室内)製造会社 自動停止(改質器温度異常換気装置異常) 換気装置異常り 炎検知装置 立ち消え安全装置空だき防止装置自動温度調節装置		
安	全	措	置	室面積 m² 発電専用 発電+熱供給 その他発電 対震装置(無 有) 型式番号 設置位置(本体室内)製造会社 自動停止(改質器温度異常換気装置異常) 換気装置異常) 炎検知装置立ち消え安全装置空だき防止装置自動温度調節装置過熱防止装置停電時安全装置自動ガス遮断装置その他		
安燃	全	措配	置管	室面積 m² 発電専用 発電+熱供給 その他発電 対震装置(無 有) 型式番号 設置位置(本体室内)製造会社 自動停止(改質器温度異常換気装置異常) 換気装置異常) 炎検知装置立ち消え安全装置空だき防止装置自動温度調節装置過熱防止装置停電時安全装置自動ガス遮断装置その他 する他 材質(鋼管 鋼管 その他)配管方法(露出 埋設 隠ぺい) 容量 は材質(鋼板 その他)板厚 mm		
安燃燃燃	全料	措配シン	置管ク	室面積 m² 発電専用 発電+熱供給 その他発電 対震装置(無 有) 型式番号 設置位置(本体室内)製造会社 自動停止(改質器温度異常換気装置異常) 換気装置異常) 炎検知装置立ち消え安全装置空だき防止装置自動温度調節装置過熱防止装置停電時安全装置自動ガス遮断装置その他 材質(鋼管鋼管をの他)配管方法(露出埋設際ペい) 容量 L 材質(鋼板をの他) 板厚		
安燃燃燃	全料料。	措配シーラで	置管ク筒	室面積 m² 発電専用 発電+熱供給 その他発電 対震装置(無 有) 型式番号 設置位置(本体室内)製造会社 自動停止(改質器温度異常換気装置異常)炎検知装置立ち消え安全装置空だき防止装置自動温度調節装置過熱防止装置停電時安全装置自動ガス遮断装置その他 材質(鋼管鋼管 行電時安全装置自動ガス遮断装置をの他 材質(鋼管鋼管 その他)配管方法(露出埋設 隠ぺい) 容量 L 材質(鋼板をの他)を体からの水平距離 固定方法(ボルト固定溶接をの他)を体からの水平距離 m 貫通部の構造[遮熱材料(無有)をの他 こ 給気口面積(C m²)給気口位置(床面から		
安燃料料	全料,特质,	措配シュラロ	置管り筒気等	室面積 m² 発電専用 発電・熱供給 その他発電 対震装置(無 有) 型式番号 設置位置(本体室内)製造会社 自動停止(改質器温度異常換気装置異常)炎検知装置立ち消え安全装置空だき防止装置自動温度調節装置過熱防止装置停電時安全装置自動ガス遮断装置その他 材質(鋼管銅管 その他)配管方法(露出埋設際ペパ) 容量 L 材質(鋼板 その他) 板厚 mm 固定方法(ボルト固定溶接 その他)本体からの水平距離 m 貫通部の構造[遮熱材料(無有) その他] 給気口面積(cm²)給気口位置(床面からcm) 給気ファン(給気量 m³/h)給気ファンの位置(床面から cm)		
安燃料料	全料料。	措配シュラロ	置管り筒気等	室面積		
安燃料燃取耐	全料,特质,	措配タ気空口措	置管り筒気等置	室面積		
安 燃 排 燃 取 耐 消 警	全料料焼入震	措 配 シ 空口措 設 設	置管り筒気等置備	室面積 m² 発電専用 発電+熱供給 その他発電 対震装置(無有) 設置位置(本体室内)製造会社 自動停止(改質器温度異常換気装置異常)炎検知装置立ち消え安全装置空だき防止装置自動温度調節装置過熱防止装置停電時安全装置自動ガス遮断装置その他」 付置(網管網管不の他)配管方法(露出埋設際べい)容量 材質(網管網管不の他)配管方法(露出埋設際べい)容量 人材質(網板不の他)からの水平距離 m 貫通部の構造[遮熱材料(無有)その他」 「 協気口面積(四度である)が表気の位置(床面から の水平距離 m 「 お気の間積(四度である)が表気の力を対した。 「 お気の可能を表するのはである。 「 お気の間積(のまれが)が表気の力を対した。 「 お気の可能を表するのはである。 「 お気の可能を表するのはである。 「 お気のである。 「 まるのである。 「 まるのである。 「 まるのである。 「 まるのである。 「		

- 備考1 項目中、□欄は該当するものに✔印を付し、下線部分には該当する内容を記入すること。
 - 2 良否欄は、記入しないこと。
 - 3 火災予防条例(昭和37年東京都条例第65号)第8条の3の区画ごとに作成すること。
 - 4 キュービクルは、「キュービクル式変電設備等の基準」(昭和 50 年 10 月東京消防庁告示第 11 号) に適合したものを該当とする。